

作ろう! ガーデンハウス、工房、趣味部屋、ツリーハウス...

GAKKEN MOOK
ドゥーパ!
特別編集

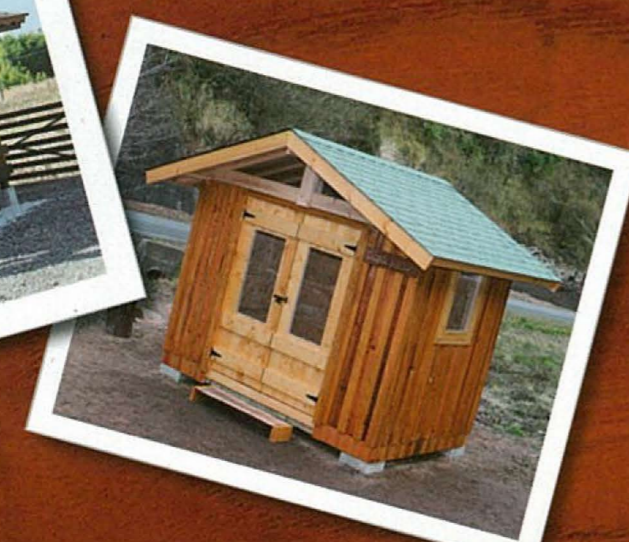
実践&
実例

手作り ウツディハウス



自分
で
作る
小さな
木の
家

小さくても楽しい!
わが家の庭の夢空間
ガーデンハウス/工房
趣味部屋/ログハウス/物置:
3つの工法で実践/ガーデンハウスの作り方
3畳ハウス/4畳半ハウス/シエツド
最新キットハウスカタログ



家族と語らいの時間を作るレトロな空間 廃材を集めて作った 古民家風囲炉裏小屋「蓬菜庵」

ウッドィハウスの暮らし
 Woody House
 Best Selection

FILE 12

施工名 正守道夫さん (61歳)
 所在地 静岡県藤枝市
 DIY歴 約20年
 工法 在来軸組み工法
 基礎 ベタ布基礎
 延べ床面積 約14㎡
 製作期間 述べ10年
 製作費用 約10万円
 外壁 ヒノキ材
 床 ヒノキ材
 屋根材 アスファルトシングル

写真©谷瀬 弘 040

「蓬菜庵」の特徴は、ほとんどの部分が廃材を用いて作られていることだ。なんと費用の目安は1カ月数千円というから驚き。不要になった山小屋を自ら解体したり、木材加工業者から規格外のヒノキ材をもらったり、昭和初期の商家の解体現場に声をかけて材料を集めながら作った。

自分のことを「気まぐれ」と分析する正守さん。製作前に囲炉裏小屋の図面を引いたものの、製作途中に「換気がよくなる越屋根をつけたい」とか「やっぱりドアは引き戸がいいなあ」とアイデアが浮かぶと図面を無視して着工というところがよくあったそうだ。材の長さが足りなくなると、手持ちの材でつぎはぎすることもしばしば。「予定変更は大変、でも思いついたことを形にする瞬間がたまらない」と楽しそうに笑う。



昭和初期の商家の解体現場から引き取ってきた襖。時代を重ねてきたことを感じさせる色味

う飾り格子は重厚な存在感で部屋に溶けこんでいる。囲炉裏まわりに張りつけた赤味を帯びたケヤキの床板も、時間の経過を感じさせる味わい深さだ。新しく作ったもののなにも、まるで以前からここに建っていたような錯覚に襲われてしまう。

上京している子供たちが帰ってきたときは、「蓬菜庵」でおいしいものを持ちよって、囲炉裏を囲んで語りあう時間を楽しんでほしい。正守さんにとって、楽しみで作った囲炉裏小屋は自分の居場所になり、同時に家族との絆も深める大切な場所になったようだ。



タイムスリップした錯覚に襲われる室内。すべてをもらいものだというアンティークの小物が、レトロな世界を形作っている



「蓬菜庵」正面。この完成度で、ほとんどが廃材からできあがっているというから驚き



01 部屋のいたるところに飾られたアンティークの小物類。左端の傘はなんと大正時代のもの。02 入口の扉には廃材の飾り格子をはめこんだ。幾何学的な模様は、当時の職人技をみる。03 持ってきた時は手垢で真っ黒だった桐箆筒も、磨いて塗装し見事に再生



製作中「ハットひらめき」作った越屋根。内部には小さな換気扇がついていて、換気がよくなる

